

佐賀中学校

「人間を大事に」

「自他ともに」

大切にすることができると

校長 谷 範浩

◆本校の概要

本校では「人間を大事に」を学校教育目標として、人権「同和」教育を基本に据え、いじめや差別を許さない人としての生き方を大事にしなが、全校生徒63名で、日々の授業や部活動、さらに生徒会活動や学校行事に頑張っています。

◆本年度の重点的取組

本年度は、昨年に引き続き高知県教育委員会の「志育成型学校活性化事業（夢プロ）」の指定を受け、生徒の自尊感情・自己肯定感・自己有用感・社会性を育む取組を、特別活動の時間を中心に推進しています。

さらに、「いきいき」「わくわく」「思いやる」のスローガンを定め、生徒主体の授業作りや学校行事に取り組みんでいます。このような活動を通じ、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を行うことにより、一人

ひとりの生徒が「より良く生きる」ための意欲づくりや学力向上を目指しています。

◆防災教育

一昨年度から、生徒会活動の一環として、「防災委員会」を設置し、メキシコのシワタネホ市の中学校との合同避難訓練や、地域のお年寄りへのボランティア活動など、さまざまな防災に関する取組を生徒が中心となり行っています。昨年度は、その取組が評価され、「第22回防災まちづくり大賞」で総務大臣賞を受賞するなど、大いに評価されました。

避難路や家具の固定について考えるきっかけとなった」などの声が寄せられました。

◆基礎学力の定着と充実

本校では、校内研究テーマを「学力向上をめざした学級づくりの研究」として、「基礎学力の定着と充実」に取り組みんでいます。本年4月に実施した全国標準学力調査の結果では、1年生は、国語・社会科に課題が見られ、全国平均を下回る結果でした。2年生は、国語・数学・理科で全国平均を上回るなど、全体的に良い結果となりました。

3年生は、全国学力学習状況調査の自校採点では、県平均とほぼ同じような結果となり、1年入学時と比較すると、着実に力をつけています。

学年や教科によってそれぞれ課題がありますが、基礎学力の定着を図り、学力を向上させるために「夢プロ」の指定を活用しながら、主体的・対話的で深い学びができる授業づくりを通して、だれもが「わかる、できる」授業をめざしています。



「改め

◆佐中祭

今年で「佐中祭」も18年目となり、すっかり地域の行事として定着してきました。

今年度は、「夢プロ」の授業を通して、3年生が佐中祭をより楽しいものにするために、ステージ部門を盛り上げようと決め、全員でパフォーマンスに取り組み、楽しい「佐中祭」となりました。また、例年同様、全校生徒が縦割り班で各店舗の運営をするなど、地域の人々にも喜ばれたと思います。出店・ステージ部門ともさらに充実したものとなり、大いに盛り上がりました。今年度は、「1人暮らしのお年寄り訪問」で作成した防災マップを掲示するとともに、防災委員からの取組の発表も行うなど、新しい佐中祭の第一歩となりました。



◆佐賀カレッジウィーク

今年も夏休み当初に「キャリア講演会」を実施しました。コンサートや、人権講演会、教職員の趣味や経験してきた話などを通して、「学ぶ意欲。学ぶ動機」に繋がればと考えています。

今回は、7月25日に三味線ライブ、27日にODA(政府開発援助)の職員を外務省から招き、国際交流・国際貢献についての話を聞きました。

また、昨年度から取り組んでいるお隣の佐賀小学校の夏期補習を中学校の教室を使って行いました。補習には、中学校の教員や中学校3年生の生徒も参加し、ジュニアティーチャーとして、丸付けなどのボランティア活動をしました。

◆いきいき合唱コンクール

昨年より始めた学級対抗の合唱コンクールも回を重ねるごとに充実したのとなってきました。寸劇や曲の途中のパフォーマンスなどもあり、各学年工夫した発表で楽しいひと時をすごしています。



南郷小学校

「いつも笑顔で元気です」

校長 坂本 恭美子

◆45名の輝く瞳

青々とした田んぼのあぜ道を子どもたちが元気に登校してきます。



遠くからでも大きな声で「おはようございます」とあいさつができる「南郷っ子」。街頭指導に立ってくださっている地域の方からも、あいさつがとていいいとほめていただきます。

今年度の学校教育目標は「いつも笑顔で元気です」。学校にはさまざまな目標がありますが、その頂点に立つのが学校教育目標です。児童・教職員だけでなく、家庭や地域にも親しまれる目標になればと願ひ設定しました。

子どもたちは休み時間になると我先にと校庭に飛び出します。学年関係なく遊んでいます。保護者・地域の皆さんも、学校に対して温かくとても協力的です。

春、5名(男子2名、女子3名)の新入生を迎えて、児童数45名(男子27名、女子18名)でスタートしました。児童一人ひとりが「学校が楽しい」、「友達といえるのが楽しい」、「勉強がわかる。もつとできるようになりたい」と瞳を輝かせる

人権が尊重された教育活動に教職員12名、力を合わせて取り組んでいきます。



◆豊かな教育に優れた指導力+環境整備

◆豊かな教育に優れた指導力+環境整備

新学習指導要領において、生きる力を育むために、①知識および技能の習得②思考力、判断力、表現力等の育成③学びに向かう人間性を実現するよう示されています。そのためには「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が不可欠です。

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業とはどのような授業なのか。教職員で目指す授業のスタイルを確認し、研究のテーマを「学び合う子どもを育てる授業づくり」言語活動を大切にしたい」とし授業力

の向上に努めています。

これまでの地道な教育実践により、各種学力調査の学校全体の平均値は概ね満足の結果となっており、今後、一人ひとりの学習状況を把握し、個に応じた適切な指導を実施するために、教職員間の学び合う風土を大切にして実践に努めます。

豊かな教育に必要なもう一つの要素は環境整備です。毎朝元気に登校してくる子どもたちを、掃除が行き届いた気持ちのよい学校で迎えた

いと思えます。また、教室や廊下の掲示物も子どもたちの活動が見えるものに工夫しています。



◆「命を守る」

防災教育&安全教育

防災教育は学校の重点課題と位置付け、毎月の避難訓練、朝マラソン、炊き出し訓練、防災学習・研修、保護者・地域との連携など、実践を積み重ねています。

7月の避難訓練では非常持ち出し袋を「一人一つ」各家庭で用意し、地域・行政

の協力により整備されたヤモウジの防災倉庫に備蓄しました。

また今年度「高知県安全教育推進事業」の拠点校として、学校を核とした安心安全な町づくりへと取組の拡充が図られます。まずは、「南郷の子どもを育てる会」の皆さんの協力を得ながら、「安全教育実践委員会」を立ち上げ、安全安心な町づくりのモデルになるような取組を実行していきます。

学習の成果は、1月17日(木)「命を守る参観日」にて報告します。ぜひご参観ください。



◆「自立・貢献」

ふるさと・キャリア教育

この黒潮町に育ちゆく子どもたちが、黒潮町の自然・産業・文化・歴史・人を学ぶことで、ふるさとを誇りに思い、社会の一員としての帰属意識をもち、貢献できる人へと育つことを目指しふるさと・キャリア教育を教育課程に位置付け取り組んでいます。

重点教材として「漬物・

干し大根づくり」「砂浜美術館・綿花栽培」「ラッキョウ栽培」などがあげられます。中でも本校の地域の産業体験活動の集大成でもある「クジライス、米作りから販売まで」は米

津治男さんの協力を得て20年近く続けている体験活動です。ふるさと学習はほかにも、「太刀踊り(運動会や祭りで披露)」、地域の福祉施設との交流などがあります。地域に根差し地域と協働することが豊かな学びにつながります。「地域を誇りに思い、地域を愛する子ども」を育てていきます。



これらの学習の総まとめ「ふるさと自慢大会」は南郷小ふれあい参観日として、2月16日(土)に開催します。

◆情報発信

学校の魅力、子ども・教職員の生き生きとした姿を南郷小ホームページで随時更新しています。ぜひご覧ください。

